慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	明礬取引小史
Sub Title	
Author	渡邊, 國廣
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1956
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.49, No.8 (1956. 8) ,p.605(55)- 608(58)
JaLC DOI	10.14991/001.19560801-0055
Abstract	
Notes	書評及び紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19560801-0055

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

り、革命をおしすすめようとする勢力とこれを阻止しようとする勢力の衝突は、次第にはげしくなつていつた。一八四八年のいわゆる三月革命は、フランス、オーストリヤ、ポーランドなどにおこつた一連の革命的な騒ぎの一環をなすもので、ここにドイツにおけるブルジョア革命は成功するかに見えた。「一八一五年以來、『三十三年の隷屬』のうちにつもりにつもつた人民の革命的エネルギーが、ここに爆發したのである」（九二頁）。

だが結局それは、『裏切られた革命』として、失敗に終つた。「ブルジョアジー貴族の自由主義的＝君主主義的サークルの態度は、妥協へのあこがれ、反動に對する公然たる武裝鬪爭の結果への恐れ、勞働者への不信に動かされていた。勞働者の獨自の經濟的要求を、彼らは、シュレジェンの織工の暴動以來恐れ、ことに、ヨーロッパの政治的地平線にもプロレタリアートの影が威嚇的にたち上つてきた。パリの二月革命以後は、なおさら恐れていた『共産主義の幽靈』がさまよいはじめた」（九五頁）のである。

ドイツ農民戰爭以來、最初の革命であつたこの三月革命は、何故に敗れなければならなかつたか、アブッシュはつぎのように云う。第一に、富裕になつたブルジョアジーが、人民との共同戰線よりは、王や貴族との妥協を選んだことである。第二に、プチブルと農民よりなる民主黨が、時機を逸せず徹底的な大膽な行動に出る肚をきめなかつたこと、そして第三に、若い勞働者階級の力は、ドイツの一般的な民主的鬪爭の指導を考えるには、當時まだあまりにも弱かつたことである（一〇一頁）。こうして一八四八年の革命の失敗は、反動勢力に長くその勝利を約束し、來るべき二十世紀において、ドイツ國民はこの反動勢力と對決しなければならなかつた。

三

一八四八年以後、第一次世界大戰勃發までのドイツは、いわゆるビスマルクの時代にはじまり、ヴィルヘルム時代につながるドイツ資本主義の最盛期であり、黄金時代であつた。ユンカー出身の獨裁者ビスマルクは、一方において勞働者階級の運動をおさえ、他方自由主義者を骨抜きにすることによつて、ドイツの民主化をはばむため、あらゆる手段をとつた。すなわち彼は、三つの方策によつて勞働運動に對處した。すなわち第一に、一八六三年五月以來ラッサールと結ぶことによつて、第二に、社會主義鎭壓法によつて、そして更に第三に、上からの社會保險制度によつてである（一二五頁）。このようにして、ビスマルクの《プロイセン的社會主義》は、勞働運動の奥深く入つていつた。アブッシュは、つぎのように云う。「フリードリッヒ二世とビスマルクとは、プロイセン的反革命、プロイセン的反社會主義の生んだ二人の立役者であつた」と。要するにビスマルク的社會政策とフリードリッヒ二世の侵略政策こそ、ヒットラーによつて完成されたものであり、獨占資本の走狗であつたヒットラーが彼等から多くのものを學んだことを力説している。

＊　＊　＊

アブッシュのこの大著は、ドイツ・ファシズムの成立を、その精神史の背景において把握したものとしては唯一のものであり、貴重なものではあるが、ドイツの勞働者階級運動の發展と後退について、とりわけその特殊性について、あまりのべられてはおらず、思想的な點からのみ考察されている感がある。

ここにこの著作の限界が存するように思う。

（飯田　鼎）

明礬取引小史

一

明礬は中世のヨーロッパで貴重な品とされ、東方からの輸入に負つた。脫脂と染色のため織物工業でかなりの需要があつた。

成立期の織物工業については豐かな研究史に惠まれる。しかし原料が如何にして調達されたかについて研究は多くない。生産の過程において必要となる明礬に關して全く觸れられなかつたのも止むを得ない。しかし最近披見した論文 Marie-Louise Heers, "Les Génois et le commerce de l'alun à la fin du moyen-âge", Revue d'histoire économique et sociale 1954 No. I, pp. 31-53. は研究史のこの空白を埋めてくれる。以下はその紹介である。主産地である東方で明礬を採掘したのは誰か、また誰が販賣を擔當したかについて記述しているので興味深い。

二

明礬坑は東方の各所に散在し、ジェノア出身の商人が獨占していた。ジェノア人の植民地にある鑛山について見れば、先ずフォーケ坑が目立つ。東方で最大のもので、十三世紀末以來最初ツァカリア家の獨占であつた。次いでその沒落後はカタネオ・デラ・ヴォルタ家の獨占となつた。しかし既にカタネオ家による單獨の獨占ではなく、ほかにサルヴェーゴ家とドリア家が獨占に加わり、十四世紀に早くも組合が成立していた。ところが一三四〇年フォーケ坑はトルコ人により占領され、壞滅的な打擊を受けた。一三四六年ジェノア商人は本國から船隊の救援を得てその奪回に成功した。戰費を調達したこれら商人の間で組合が結成され、フォーケ坑と附近の明礬坑は以後この組合の支配に屬するようになつた。但し本國商人がこの組合に參加したのは一四二四年以降で、組合に屬する商人から權利の移讓を受けることによつてであつた。

特定家族による獨占から共同へというこの動きは、トルコ領やギリシャ領内深く進出して明礬坑を請負つたジェノア商人の間でも見られる傾向であつた。この種の動きはマルマラ海の諸島の明礬坑で活躍したジェノア商人の場合特に顯著であつた。

組合は直接に採掘に當つたわけでなく、採掘權を競賣に付すか、直接に採掘に從事する業者のために融資するかであつた。明礬は山元で買却された。そして他の商人が轉出を擔當した。しかし販賣もジェノア出身の商人の獨占であつた。例えばロメリニ家。ロメリニ家はペラ、ブルージュ、ジェノアに一族の者を常駐させ、家族的結束によつて販賣網を擴大して行つた。ペラの駐在者はフロレンス織物工業に供給される明礬を扱つた。ジェノアの駐在者の手でスペイン、イギリス、フランドル向け積荷が整理された。ブルージェの駐在者はフランドルでの販賣を引受けた。ジェノアの駐在者がただ一

人の船主から二年間に受取つた明礬が三千トンに達したということからだけでも輸出商人としてロメリニ家が明礬取引において占める位置の高さを窺い知ることが出來よう。

十五世紀の初頭では採掘と販賣が分離していた。この段階ではそれがまた特徴でもあつた。知られる如く、採掘を指導したのは金融業者であり、輸出は大商人の支配するところであつた。

十五世紀の中頃に近くなつて、明礬坑は再びフランチェスコ・ドラペリオの手で獨占された。ドラペリオはジェノア人の東方植民地で政治家・外交家・軍政家として活躍したが、何よりも有能な商人であつた。明礬坑の獨占はその活動の一端に過ぎない。

ドラペリオは先ずフォーケ坑を獨占した。そして一四五一年までニコラオ・デェ・セストリをして採掘に當らせた。一四五一年以降は代つてヴェスコンテ・ギウスティニアニに採掘させた。一四五一年の採掘量は一説に七百トンを越えるともいわれた。更にドラペリオはトルコ領やギリシャ領で明礬を採掘する權利をも取得してクリストフォーロ・ギウスティニアニを採掘に當らせ、從來この權利を獨占していたジェノア商人ガティルシオに代つた。ドラペリオによる獨占はここに完成し、東方の明礬坑は全くドラペリオの支配するところとなつた。

ドラペリオが如何に强力とはいえ、未だ明礬の輸出をも獨占するまでに至つていない。僅かにドラペリオはこれまでに築いた販賣網を利用して明礬の輸出に名を連ねたに過ぎない。ドラペリオは採掘に對する融資を主とし、採掘に直接當つたクリストフォーロ・ギウスティニアニをして、例えば一四四八年には五萬カンタルをキオにあるジェノア人の輸出組合に出元で賣却させていた。また一四四九年には四萬カンタルをキオにあるジェノア人の他の輸出組合に同じく出元で賣却させている。

知られる如く、販賣はこの二つの輸出組合の擔當であつた。各輸出組合はキオに住む五名のジェノア商人により構成された。これら商人はいずれもドラペリオによる單獨の獨占が實現するまでフォーケ坑を共同で所有していた商人であつた。この輸出組合はヨーロッパの各地に駐在者を置いていた。

十五世紀の中頃に近くなつて、明礬坑は悉くドラペリオの獨占、輸出のためには二つの有力な會社が競爭していた。そしてこれがその時期の特徴となつた。

しかし一四四九年にドラペリオを中心に組合が設立され、この段階で漸く明礬關係者の一大團結が實現した。明礬で示された全資本五〇萬カンタルのうち半分をドラペリオが所有していた。設立の目的は採掘と販賣を統一的に管理することによつて價格の崩壞を防止することにあつた。十五世紀の初頭に〇、七五デュカであつた明礬一カンタルの價格は一四一二年に〇、七デュカとなり、更に一四四八年には〇、三七五デュカとなつた。殆ど半額であつた。そしてこのように急激な價格の下落が組合結成の背景となつたのであつた。

從つて明礬の輸出に際して勝手は許されない。輸出を決定するのは組合であつた。しかし價格の調整のために販賣管理ではなお足りない。組合は採掘の指導にも乗出し、生産過剩を避けるためミティレーネ島の明礬坑を十年間にわたり閉鎖するよう指示した。組合はこのため年々五千デュカの賠償を用意し、その時までミティレーネ

島で明礬を一手に採掘していたガティルシオ家のために支拂つた。

組合の運營は幹部會の決定によつた。幹部會は八名で構成され決定は投票によつた。但し全資本の半分を所有しているドラペリオは四票、第三の株主マルコ・ドリアは二票、他は各一票で、都合十二票あつた。そして決定が實行に移されるためにはこのうち七票を得なければならなかつた。

三

明礬は一旦キオに集められた。そしてここからヨーロッパの各地に積出されて行つた。輸送には二つの方法があつた。一つは傭船による方法であつた。この場合荷主は航路と寄港地を指定することが出來た。他は寄港船を利用する方法であつた。この場合送り先に寄港する船を探して荷を託するわけであるが、第一の方法に比較して甚だしく手間取つた。

明礬輸送のためには普通一萬カンタルから二萬カンタルの積量を持ち、百人もの水夫を乗組ませた大型船が利用された。明礬一カンタル當りの運賃は明礬原價の約三割というのが通例であつた。ほかに積荷一カンタルについて最大五分の保險が支拂われていた。しかし輸出量については記載史料に乏しい。僅かに一四四九年の史料によつて、この年の一月から三月までに二一隻がキオを出港し、うち七隻は大型で各一萬カンタルを積み、他は小型で都合三萬カンタルを積んで行つたこと、また一四五五年の史料によつて、この一年に大型船だけで八隻がキオを出港し、總計七萬カンタルの明礬を運んだことを窺い知ることが出來るのみである。しかしこの事實は東方明礬のヨーロッパへの盛んな流出を示す證據として十分であろう。

東方の明礬に對してはヨーロッパ各地の織物工業で需要があつた。ヴェニスやフロレンスの商人で東方に出向いて必要な明礬を調達して行つた者もあつたが、輸出明礬の取扱量に關してジェノア出身の商人に遠く及ばなかつた。正に貿易についてもジェノア商人の壟斷するところであつたということが出來る。

ジェノア商人が關係した明礬市場のうち最大のものはフランドルとイギリスであつた。特にフランドル市場は壓倒的な重要性を持つていた。東方のジェノア商人は早くより個々にブルージュに代理を置き、また一四四九年組合が結成されて以降はブルージュのジェノア人居留區のなかに總代理が常駐し、フランドル織物工業に對する明礬供給に當つていた。今やブルージュはヨーロッパにおける明礬取引の一大中心となつた。サザンプトンを根據にイギリス市場で明礬の供給を擔當していたジェノア商人が絶えず迫害に惱まされなければならなかつた場合と違い、居留區で保護されていただけに商權の擴張は容易であつたのである。例えばブルージュで五萬カンタルを扱つた同じ年にサザンプトンの扱い量は僅か四千カンタルに過ぎず、ブルージュの優位は全く不動のものであつた。ドイツ商人はブルージュに出向いて明礬を買付けた。またサザンプトンのジェノア商人は必要に應じてブルージュのジェノア商人からの供給に依存していた。明礬の集荷所としてブルージュの持つ價値も重大であつたのである。

このように盛んな明礬の取引はブルージュに常駐する代理によつて遂行された。明礬の輸出に從事する如何なる商人もブルージュに

代理を置いていた。一四一六年以降ではロメリニ家の代理の活躍が目立つ。また一四三九年以降ではヴェスコンテ・ギウスティニアニ家の代理が顯著な活躍を示していた。ギウスティニアニ家はフォーケ坑に出資していたが、一四四九年に結成された組合にその權利を移轉して以後は專ら組合のために技術指導に當つている。一四四五年以降ではキオのギウスティニアニ家の進出が目立つた。そしてこれら個々に進展して來た取引は一四四九年に成立した組合がブルージュに總代理を置いたことによつて統轄されて行つたのであつた。

四

十四世紀を通じ、そして十五世紀の前半までジェノア出身の商人が東方で明礬を獨占していた。しかも知られる如く獨占は採掘と販賣の全體にまで及んだ。僅かに販賣の面でヴェニスとフロレンス商人の介入を許したのみであつた。

しかしこの獨占も東方におけるジェノア勢力の退潮と共に崩壞を餘儀なくされた。トルコ人の進出が崩壞の直接の原因となつた。早くも一四五三年にトルコ帝は經濟的にジェノア商人を壓迫しようとし、貢稅の支拂を要求している。そして一四五五年には船隊を派遣してフォーケ坑を奪取させた。採掘は完全に停止された。東方の各所に散在する明礬坑もこの頃までに全く閉鎖されている。明礬坑を追われてキオに集つたジェノア商人はそこに貯藏されていた明礬を賣ることによつて僅かに餘命を繋ぎ得たに過ぎない。

從つてキオに貯藏がある限りヨーロッパでは明礬の缺乏を感じなかつた。しかしこの貯藏分をもつてヨーロッパの需要に應じ得られたのは全く一時であつた。一四五八年以降というものはヨーロッパで東方産の明礬を見ることが出來なくなつた。そしてこのことがヨーロッパの織物工業の發展にとつて重大な障碍となつたことはいうまでもない。例えばジェノアでは一四五八年に織物業者が明礬の不足で操業の困難なことを訴えている。市會はかかる事態に直面してジェノア在港の各船に對し最少限五〇カンタルの明礬を陸揚げすべきことを命令した。またヨーロッパで最大の明礬消費地を控えたブルージュでは狀態は更に悪化していた。

ヨーロッパで明礬坑が眞劍に開發されるようになつたのはこの頃からであつた。フロレンス商人によつてナポリ灣に散在する島々の明礬坑、シチリア島の明礬坑が本格的に採掘され始めた。またジェノア商人はヴォルテラ明礬坑の開發に努力していたばかりでなく、ヴェニス商人と共同でチィロール坑の採掘にも當つている。ヴェニス商人はアフリカにまで進出し、トリポリの明礬をヨーロッパにもたらした。

しかしこれらではなお不十分で、價格の高騰は破局的であつた。例えばジェノアにおいて明礬の價格は一四五三年まで一カンタルについて二リラ半であつたが、一四五五年には六リラ半、一四五八年には八リラ、一四五九年には十リラという高騰であつた。しかしヨーロッパの織物工業にとつてこの不幸な狀態が解消されるためにはトルファ坑が本格的に開發されるようになつた一四六二年まで待たなければならなかつた。

（渡邊　國廣）

經濟學關係文獻目錄

（昭和三十一年五月刊）

理論・學說史・經濟思想

＊經濟學教科書　1　（合同新書）　增補改訂版　ソ同盟科學院經濟學研究所　マルクス・レーニン主義研究所譯　B40　二四四頁　一二〇圓（合同出版社）

＊「經濟學教科書」の問題點　下　社會思想研究會編　B40　二四六頁　一四〇圓（中央公論社）

＊經濟學と辨證法——ルカーチのヘーゲル研究——（社會科學選書）出口勇藏編　B6　二六〇頁　二五〇圓（ミネルヴァ書房）

財政・金融・保險・證券

＊金利　全國銀行協會連合會編　A5　二〇九頁　三〇〇圓（東洋經濟新報社）

＊現代の金融理論（講座金融1）山口茂・沖中恒幸編　A5　二三八頁　二八〇圓（春秋社）

＊保險の本質　印南博吉著　A5　五七二頁　九〇〇圓（白桃書房）

＊アーノルド海上保險　4　海上危險論共同海損論　葛城照三譯　A5　四三〇頁　六五〇圓（アーノルド海上保險刊行會）

＊昭和財政史　2　財政機關　大藏省昭和財政史編集室編　A5　六七四頁　一四〇〇圓（東洋經濟新報社）

＊主要諸國の戰後財政——軍事費の分析を中心として——時子山常三郎編　A5　三四五頁・五五〇圓（東洋經濟新報社）

＊世界の社會保險史　笹田三信著　B40　一二〇頁　一二〇圓（高陽書院）

＊保險　らいぷらりいしりいず　永澤謙三編　B6　二二二頁　二三〇圓（有斐閣）

商工業・經營・會計

＊勞使協力と會社經營　高瀨莊太郎編　A5　三六五頁　四八〇圓（森山書店）

＊會計機械化研究　神戸大學經濟經營研究所編　A5　一三五頁　一八〇圓（森山書店）

＊パチョーリ「簿記論」の研究　片岡義雄著　A5　二九五頁　四八〇圓（森山書店）

＊小企業と大企業　ジョセフ・スタインドル著　米田清貴・加藤誠一譯　B6　一四〇頁　一七〇圓（巖松堂）

＊オートメーションと新しい社會　P・F・ドラッカー著　中島正信監譯　B40　一三七頁　一〇〇圓（ダイヤモンド社）

＊中小企業經營論（經營全書）末松玄六著　B40　二六四頁　二五〇圓（ダイヤモンド社）

＊工業會計　笹淵文男著　A5　四一二頁　五五〇圓（中央經濟社）

勞働・社會政策

＊失業者の存在形態——常磐炭鑛地帶の實態——大原社會問題研究所編　A5　一九三頁　四二〇圓（東洋經濟新報社）

＊職種別賃金　1　昭和三〇年　勞働省勞働統計調査部編　B5　二一一頁　三六〇圓（勞働法令協會）

＊職種別賃金　2　昭和三〇年　勞働省勞働統計調査部編　B5　一五五頁　二八〇圓（勞働法令協會）

＊職種別賃金　3　昭和三〇年　勞働省勞働統計調査部編　B5　一五九頁　二八〇圓（勞働法令協會）

＊職種別賃金　4　昭和三〇年　勞働省勞働統計調査部編　B5　二九九頁　四〇〇圓（勞働法令協會）

＊職種別賃金　5　昭和三〇年　勞働省勞働